ISHIGAKI

まるざー

石垣市の女性と男性のひろば

「いしがきプラン」地域推進委員会を設置

男女共同参画社会の実現をめざす「いしがきプラン」の効果的な推進を図るために、広く市民の協力を求め、かつ、意見、情報交換を行い、地域推進体制づくりを促進するためにいしがきプラン地域推進委員会を設置

「いしがきプラン」地域推進委員の委嘱及び会議

No. 9
1999年3月

発行／石垣市総務部企画室女性行政係　〒907-0012 石垣市美崎町14番地　TEL 09808-2-1243(内136)

題字：島袋 綾野

「いしがきプラン」推進市民フォーラムの開催

女性と男性が共に責任を担い合い、個性豊かに生きる社会づくりをめざした行動計画「いしがきプラン」の推進は、行政はもとより市民あらゆる世代の人々の理解と協力が一層求められることから、学校・地域・家庭・行政等のさまざまな分野からの提言・意見交換を行い、「いしがきプラン」に対する理解を深め、個性豊かな住みよいまちづくりを促進するために開催。

基調講演

県女性政策室長
垣花　みち子

～「人間らしく、個性豊かに生きるまちづくり」をめざして～をテーマにもらって、「地域」とは「地域社会」とは何なのかを改めて考えてみました。

国語辞典等を引きますと、「地域」とは土地の区域、「地域社会」とは一定の社会的特徴をもった地域的範囲の上に成立している生活共同体である、と書いてありまして、「生活とは」世の中で暮らしていくこと、「共同体とは」共に助け合う組織のことですから、「地域」とは皆が助け合っていろいろな協力をしながら暮らしているところと思えばいいのかなと考えました。

地域は、人と自然とで構成されているので「地域づくり」には多くの課題があります。私たちが快適で住みよいと思う地域は、「地域が明るくて、活気に満ち、皆の暮らしに必要な施設が整っていて、子育てがしやすく、情報交換がなごやかにでき、一人暮らしのお年寄りがいても皆で助け合って暮らせるところ」ではないかと思います。口で言うのは簡単ですが、どれ一つをとっても難しい課題ですね。

地域の仕組みや暮らしについて、男女のパートナーシップによる豊かな発想をもってつくられるべきところをこれまでは、男性のみの発想でつくってきたところが多いのではないかと思います。

ですから、女性にとって何かぎこちなく住みにくいところがあると思います。

ある女性がこういう話をしたことがあります。「世の中の人は、右利きが多いので公的施設等、ドアのノブ一つとってみても右利き用にできていて、左利きにとってはとても利用しにくいものです。このことを地域の仕組みづくりに置き換えて見てみますと、地域のいろいろなことが男性中心に決められていき、男性は男性中心に作ろうと考えているわけではないと思いますが、気がつかないうちに女性が利用しにくい、あるいは暮らしにくいものができあがってしまう。黙っていては、なかなか女性にも住みよい“地域”をつくることはできません。」ということでした。

また、先だって下地町の議員さんが「私は、議員になる前は、ボランティアで公園の美化活動をする普通のおばさんでした。ボランティアの美化活動に使うカマを買う予算をつけてほしいと言っても予算がつかず、環境問題や子どもたちの福祉の問題、お年寄りの生きがいの問題等予算がないということで後回しにされてしまう。これではいけない、何とかしなくてはいけないと思って議員になったんです。議員になって実現できたことは、３才未満の医療の無料化と、議員懇談会費の削減です。これまで男性議員だけの場合は公費で議員懇談会をしていたものを、自前でするようにしてその経費をもっと村に役立つことに使いましょう、ということで改善してもらいました。」と熱っぽく話しておられました。

右利きと左利きを男性と女性にたとえて指摘したように、右利き用にのみ便利なまちづくりをすると、左利きにとっては、とても暮らしにくいまちづくりになってしまいます。

住みよい地域づくりをするうえで大事なことは、男女が共同に参画してつくりあげていくことだということがよくわかるかと思います。

二人の女性が活かした地域づくりの一番のポイントは、地域の仕組みを決めたり、作ったりする場、つまり政策方針を決定する場に女性の声がなければ住みよい地域づくりはできないということだと思います。

さらに、地域づくりに大切なことは、地域に暮らしのネットワークをつくっていくことではないかと思います。

子育て、教育、福祉、環境、自立、相談のネットワークなどさまざまなネットワークをつくり、地域に網の目状にかぶせていく、或いはオリンピックの輪のようにつなげていくとすばらしい地域が見えてくるのではないかと思います。そして地域のいろいろなマップを作ってみる。

例えば、一人暮らしのお年寄りのマップ、子どもたちの数のマップ、たまり場のマップ、公民館や図書館、体育館などのマップ、相談機関のマップ、ボランティアグループのマップなど暮らしのチェックができる多くのマップを作ってみると良いのではないかと思います。そして例えば、一人暮らしのお年寄りのマップとボランティアグループのマップのバランスはいいのだろうか、子どもたちと保育園や児童館、図書館のバランスは、公園はみんなが利用しやすい場所に、みんなのいこいの場として作られ、たくさんの人に利用されているだろうか。マップを重ね合わせ、検討していくと足りない物が見つかったり、あるいはすばらしい物がみつかったりするのではないでしょうか。

暮らしやすい地域を考えるときに「ここに○○○が本当に必要か」、自分の足で歩いて、自分の目で見ることが大切です。ポイントの部分が押さえられているかどうか、地域づく

りは机の上ではできません。地域の一人一人が主人公になって、それぞれの夢をかよわせながら皆で汗を流してつくっていくものだと思います。

これまでは、男性の視点で作られたものも多いと思いますし、女性が地域になかなか出られない理由として、家事、子育て、老夫婦の面倒を見る負担が大きかったのではないでしょうか。女性だけで背負っていくのではなく、ファミリーライフ、ワークライフ、ソーシャルライフを男性と女性のパートナーシップで担い合い、個性豊かな住みよい社会を築いて行きましょう。

21世紀は女性の感性とハートでみんなにやさしい“地域”づくりを実現していきましょう。「夢のあるやさしい石垣市」をめざして。

【シンポジウム】

～人間らしく、個性豊かに生きるまちづくりをめざして～

青年会活動とジェンダー

石垣市青年団協議会
副会長　桑　江　良　乃

私たち石垣市青年団協議会は、現在石垣市で活動する７つの青年会で組織され、年齢は高校生から34歳くらいまでの青年たち約100名の会員がおります。

さらに、石青協としての活動を円滑に遂行するために、８名の役員を選出しています。

会　長	（男）	書記会計	（女）
副会長	（女）	文化教宣部長	（男）
事務局長	（男）	組織部長	（女）
事務局員	（女）	体育部長	（男）

現在、女性４名・男性４名というバランスのとれた役員構成になっていますが、個性と、分野別にするとこのような役割分担になります。

２１世紀を担う私たち青年層が、男女共同参画社会、ジェンダーフリーをどのようにとらえているか私が知っている範囲で話したいと思います。

現在の青年会活動で、「女性だからこれ」「男性だからこれ」というジェンダーといわれるものは、少ない気がします。全くとは言えませんが、力仕事であっても個人ができる範囲のことはやるようにしています。例えば、イベントの際などにテントを張るときでも、男女構わず手の空いている人が組み立てる。そうするなかで、力仕事など女性が体力的に限度のあることなどは、男性がフォローしあって活動しています。これは、思いやりだと思いますが、この辺から「ジェンダー」になるのでしょうか？

それと、青年団にはどこでも共通の昔からの問題があります。それは会員不足です。その理由の一つに結婚があります。男性は結婚をしても青年会活動を続けてる人が多いですが、女性は青年会をやめてしまいます。やめるというよりは来れなくなる方がほとんどです。結婚をしても女性が青年会を続けていける方法はないのでしょうか？ それは、私が青年会活動を始めて、感じた事です。

私の周りの２組の叔母夫婦は青年会で知り合い結婚したＡ夫婦と、同級生同士で結婚したＢ夫婦がいます。Ａ夫婦は、ちょっと前まではやりの「姉さん女房」で、共働き、５人の子どもがいます。叔母いわく「結婚しても青年会の活動に積極的に協力するし、舞踊もソフトボールも、なんでもやる。それが条件で結婚した」と冗談交じりで話してくれますが、５人の子がありますので家事・育児を二人でやっています。洗濯の取り入れから洗い物まで、できる人がやるそうです。そのうえ結婚条件も実行してくれています。私はよくこの叔母と青年会や家庭における性別での役割分担について意見しあったりします。もう１組のＢ夫婦は、共働き、３人の子どもがいます。夫の方は亭主関白とまではいきませんが、家事はもちろんのこと洗濯物を運ぶなんて事はしない、男尊女卑に片足つっこみのタイプです。しかしそうしながらもお互いできるところはやり、私の知らない、見えないところでフォローしあっているのでしょうか、とても「夫婦円満」です。

でもこの対照的な２組の夫婦がいてくれたお蔭で、男尊女卑の社会に疑問を持つことができ、青年会を続けるための新たな考え方を見いだすことができたことは、私にとって大きなプラスになりました。そこでＡ夫婦に共感する私としては、生意気ながらも「それではいけないのでは？」とＢ夫婦に問いかけます。共働きでも仕事内容が全然違うと言われれば、それこそフェアではないと思うのは、独身の私が考える都合のいい意見でしょうか？　男性が家事育児に参加をし、女性が一人で背負っている負担を二人で背負えば、できないことはないと思うのですが、どうでしょうか？　青年団の会員不足を結婚のせいだけにするわけではないのですが、青年団にはこれから結婚を控えた人たちがたくさんいます。私は結婚しても青年会を続けます。結婚したことで得た喜びや、悩みを語り合う中でいろんな人と出会い、輪を広げていく事ができれば新たに道をみつけることができると思えてなりません。しかしそう言いながらも、理想と現実のギャップに戸惑いがないとは言えません。

小さいころから、まりつきは女の子の遊び、コマは男の子の遊びというのをことごとく壊してきた私は、ジェンダー的にいえば「女のくせに…」となるかもしれません。私は上手くはありませんが、野球・ソフトボールが好きでやっています。２年ほど前に職域の社会人野球に、初の女性選手として出場し、新聞にまで載せてもらいました。相手側のピッチャーは「やりにくいなぁ」とコメントしていました。ライト前にかっこよくボールはいったのですが、アウトでした。足が遅いのを忘れていました。でも、それよりもなによりも、「野球は男子」という固定観念を少しは崩すことができたと思い

ます。なぜなら私が参加したことにより、野球試合に女性が出てきたことは確かなのです。男性のするスポーツだと思われているのを、すべての男性ができるとは限りません。女性でも、一緒だと思います。スカートをはいて歩く男性の姿は多くはなくても今の時代、目に新しいわけではありません。どんなことをするにしても、個性というものをジェンダーの目で抑圧することは時代錯誤で、これからくる２１世紀を男女共同参画社会の中で迎えることができないと思います。互いに思いやりをもって、人として尊重していけばすぐにとはいきませんが、ジェンダーフリーも実現できると思います。これは青年団で語り合える問題としてとりあげ、青年の特権であるどんな社会にも対応できる柔軟性をいかし、２１世紀を担う先頭団として団結していきたいです。

農業・農村の豊かさを実感した農村女性をめざして

農改普及センター
農村生活課長　宮　良　悦　子

〈普及事業における生活改善活動のあゆみ〉

沖縄における普及事業は今年50年目を迎えます。その間40数年余、「生活改善」という呼び方で戦後の農家及び農村の生活の改善・改良に取り組んで参りました。

しかし、社会情勢や時代の変化に伴い現在は農村生活課という呼称に変わりました。

40数年余の生活改善活動については、会場にお集まりの皆様もすでにご存じだと思いますが、少しお話をさせていただきます。

生活改善の仕事は、戦後の農家の暮らしの向上を目的に政策として取り組まれてきました。農家・農村の生活向上という目的達成のために、各地区（各集落毎に作られていた）にモデル生活改善グループの組織を結成し、当時の琉球政府から補助金が出され活動をしていました。

当時は、生産面では食糧増産を、生活面では「明るい豊かな農村生活を営むために農業経営の合理化と生活の合理化」を目標にかかげていました。

具体的な実践課題として　①家庭経済の確立　②生活の向上　③健康増進　④民主家庭の建設　等に取り組んできました。

農家の衣・食・住を向上させ健康生活をするための「栄養知識の指導」や「自家生産物を利用した料理」の普及、調理の効率化や労働の軽減のための「かまど改善」、農村における「地域での交際のあり方」など多くの課題に取り組んでまいりました。課題解決に関わるのは多くは女性であり、当時は時代を担う先進的な立場にあった農村女性でありました。

〈生活改善活動の果たした成果〉

この中で特に栄養面の活動は生活に密着していることもあり、料理講習会は長い間生活改良普及員の特権のような印象が強く残り、地域においては生活改良普及員イコール料理の先生といわれるくらいに定着していたように思えます。

しかし、時代の変化と共に農村と都市との生活の格差が縮まり「生活改善」という言葉がなじまなくなりつつあるのが現状になってきました。しかしそうだからといって農村の女性が充実して農業へ従事し、農村の生活に満足しているのかというと必ずしもそうではない現状でもあります。そのような現状から生活改良普及員の業務内容も、農村女性が個人として生き生きと暮らせる農家の生活のあり方について、女性の地位向上や社会参画による活動へと変わりつつあります。

さて、生活改善は当初、農家の暮らしを女性によって家族や地域社会のために改善し、多くの成果をみています。

その成果は女性たちの努力によって生み出されてきたと言っても過言ではないと思います。それは、多くの女性が結婚後は農作業への労働力として、重要な役割を担いつつ生活面でも大きな役割を果たしてきました。しかしその評価として、女性個人としての報酬や財産等の名義がないということは評価されていないことにつながるのではないでしょうか。

そのような女性の立場では農業への女性の参入や農家への嫁不足が起こり、農村の課題として現実になってきております。

〈国における女性問題の取り組み〉

国においても女性問題を政策課題として内閣で取り組むようになってきました。

それを受けて県でも女性問題解決に向けて取り組む体制がとられてきました。

平成４年に県女性政策室で「DEIGOプラン」の策定
（目標2000年）
平成５年に「沖縄県農山漁村女性ビジョン」を策定
（目標2001年）
平成８年　国の「男女共同参画2000年プラン」の方向に沿い、策定された指標の目標達成に向け取り組んでいるところです。

目標の実現には、女性個々人が、自ら課題の認識をし、行動に移すことが何よりも重要ですが、それにもまして男性の理解と協力が必要であります。

そのためにビジョンの中で、女性の方針決定の場へ参画する機会を多くしていくこと、女性自身の能力の向上のための学習会により自信をつける対策を講じています。

〈八重山地区における女性の社会参画状況〉では、八重山地区におけるパートナーシップに関する指標の現状をみてみると、

- 農協や漁協、森林組合への正組合員数、うち役員や総代への登用
- 土地改良区における役員登用　・農業委員の数
- 家族経営協定の締結農家数　・女性農業者年金加入者数
- 女性の農地の所有状況　・女性の労働報酬設定農家数

農林漁業における各種委員会や審議会は、数多くあります。しかし、八重山における農林漁業関係で女性が方針決定の場へ参画しているのは非常に少ないのが現状です。普及センターにおいても女性の能力を発揮するための条件整備として、能力向上のための講座や講習会、情報の発信などの業務を担っています。

〈今後の取り組み〉

国では平成９年６月から内閣総理大臣から男女参画審議会に諮問。審議を重ねた結果を平成10年６月内閣に答申。

平成11年には「男女共同参画社会基本法」の法制化に向けて国会へ提出。この基本法の制定により国や県、国民がそれぞれの分野で責任を担い、協力して「男女共同参画社会」づくりの体制が仕組まれることになります。

農業・農村においても農村女性の地位向上に向けた課題解決に取り組んでいくことが重要となります。そのためには農村女性一人一人が農業という職業に対する自信と誇りを持ち活き活き暮らせる農家生活を目指していきたいものです。

普及センターでは、農村女性への支援として家族経営を基本とする農業に家族経営協定という家族全員の合意形成を得、家族一人ひとりが充実して農業に従事できる体制づくりや農

村女性の経済的自立と地域の活性化をねらい、農村女性起業活動に取り組んでいます。

農村女性や農業後継者が安心して農業を継承でき、豊かな農村を目指した新たな取り組みが年々押し寄せています。

21世紀は農家の皆さんの主体的な活動で農業を切り拓く時代です。それにはこれまで潜在化していた女性の力を出していただくことが大切です。行動に移すことです。

方針決定の場への積極的な参画により、女性の視点から楽しい農業、儲かる農業、後継者が育つ農村地域にするための条件整備等について提言して下さい。

普及センターとしてはそのための支援をしていくことを役割としております。

今日会場にお越しの皆様へ農業に従事してない方には、農業及び農村への正しい理解とご協力をお願い申し上げます。

農業に従事している女性の方には、社会参画として役割をお願いされたときには、断らないで下さい。どんな役でも最初からできる人はいないと思います。役割を得ることから自分のものになります。又は農業関係者の皆様には、農村女性の社会参画向上のためにご理解をしていただきたいと思います。

将来的に八重山地域が農業を主要産業としての位置づけと観光の調和のとれた、自然の豊かさを活かした地域経済の確立と人に優しい島々づくりに共に頑張りたいと思います。

ＰＴＡ活動の場でも女性はもっと積極的に

真喜良小学校
ＰＴＡ会長　西　表　英　樹

私はＰＴＡの立場から、より良い石垣市をつくるために意見を述べてみたいと思います。

今、学校現場において学級崩壊の危機が叫ばれておりますが、学級崩壊がどうして起きるのかということを、先だって行われた八重山地区学力向上対策推進実践発表会の講演で、元宮古教育事務所長の大山先生が話しておられました。

その資料から一部分を引用させてもらいますと、“肥大化する欲望と氾濫するエゴイズムを抑制する制御装置を欠いたアテネでは「教師は生徒を恐れ、生徒にへつらい、生徒の方は教師を軽蔑」しました。”（プラトンの「国家」より）

すなわち、自分の欲望を抑える力の欠如した子ども達が、学級崩壊をひきおこしている原因としてとらえておられました。

今日まで石垣市において学級崩壊の報告はないと聞いていますが、現在のようにマスメディアの氾濫する中では、近いうちに石垣市でも現実のものとなる可能性があります。

このような事態を回避するためには、まず大人社会を変えていく必要があると思います。

これまでいろいろなパトロールの中や、街でよく見かけることに、火のついたタバコを車の中から平気で投げ捨てる大人、子どもを連れて平気で信号無視をする大人、また無灯火で自転車に乗っている大人等々、皆さんもよく見かける事だと思います。

シンデレラタイムも言われてから久しくなりますが、一向に改善される様子がみられないのが現状で、今私たち大人自身の“欲望に対する抑止力”が希薄になってきていることに原因があるのではないでしょうか。

このように子ども達の模範となるべき大人が、自分の事は棚にあげて、子ども達にこれをやってはダメ、あれもやってはダメと言っても説得力があるはずがありません。

今日の社会では、いまだに社会の中心となっているのはほとんどが男性で占められており、その男性自身の抑止力が希薄になってきているとしたら、この石垣市を変えていく大きな力となるのが“女性の力”にほかならないのではないでしょうか。

近年になって、女性の議員が出てきたり、私たちＰＴＡの中でも女性のＰＴＡ会長が増えて来ており、それぞれに頑張っておられますがまだまだ少ないというのが現実ではないでしょうか。

これは女性のほうにも問題があると考えます。

たとえばＰＴＡの学級懇談会に父親が出席すると、母親はこの父親が学級委員長になるべきだと言う人が圧倒的に多いことにあります。

現実的にはＰＴＡの役員の大多数が母親であるにもかかわらず、長になるのは父親が多いということも、もう少し考えてみる必要があるのではないでしょうか。

たしかに育児のことや、家庭の事などの多様であることは理解していますし、このようなことは女性だけがするというのではなく、男性も役割を分担してやることが必要ですが、そのためにも社会の中心的な役割を積極的に担っていくことが求められているとすると、石垣市ＰＴＡ連合会や八重山地区ＰＴＡ連合会も、女性の意見が反映されることになり、それだけでも社会の一部が変わってくると思いませんか。

男性の立場としては、多少寂しい面もありますが、女性にはもっと積極的に社会の前面に出てきてほしいし、それが社会のモラルを守り、学級崩壊等ということの心配の無い石垣市の街づくりにつながっていくのではないでしょうか。

夫婦がお互いの立場や違いを認め合おう

八 重 山 病 院
臨床検査技師 渡 口 勝

皆さんこんばんは。

まず、はじめに自己紹介をさせていただきます。私は、八重山病院の検査科に勤務しています、渡口と申します。

私は病院の検査技師であり、妻は看護婦という、夫婦が不規則な形態の職業であるという、立場から意見を述べさせていただきます。

看護婦という職業はみなさんもご存じのように三交代制の職場です。僕の職種も夜間緊急呼び出し当番が週一回の割合であります。子どもが生まれるまではお互いが仕事に頑張っていればよかったが。

私も妻も不規則な勤務の仕事を持ちながら、いかにして仕事と家庭を両立させていくか、結婚当初、家事の分担は洗濯、食器洗い、夜間のミルク等、やはりそれらは自分の父親がそうであったように、私も家事はきらいではなかったので家の中の仕事は抵抗なく行うことができた。そうすることによって週末の休み等は家族で出かけたり、自分の趣味をいかすことができる。お互い家事の分担範囲は決めてはなく、思いやりでやってきました。もちろん僕が緊急夜間呼び出し当番の時は妻がみてくれてます。

私たち家庭の場合、第一子と第二子は年子でしたから大変でした。その頃は育児休業もなかなか取りづらく、また経済的にもゆとりがありませんでした。上の子が発熱しているにもかかわらず妻は仕事へと出ていくのです。僕の中で自分の子どもも看れないのにどうして入院中の患者さんを看れるのかという葛藤もありました。ぐずってなかなか寝つかない子を抱っこしながら寝たこともありました。

一度こういうことがありました。妻が深夜12時からの勤務のときです。友人との付き合いで外出し、12時までに帰らなければいけない時に遅れて帰宅をしました。一時間ほどして戻ると、下の子が熱を出し、長男が頭を冷やすべくタオルを額においたが、それがうまく絞られてなく枕元までビショビショでした。それ以来、夜勤の時は付き合いで出ていてもシンデレラよろしくシンデレラボーイです。

私は趣味として野球、ゴルフ等を、また家族の協力もあり現在は5年ほど前から野球連盟の審判ということも手伝わせてもらっています。またトライアスロンの競技に参加したり、週末には家族で農業のまねごととして土いじりもしています。

今では、親の姿を見て、妻が仕事の時は子どもが食事を作ったり、家事を手伝ってくれます。

いろいろ大変な中、その子も義務教育を終えようとしています。

両親はもとより職場の先輩方、また周りの人々に助けてもらってここまでやってこれました。若い看護婦の中には看護という職業に誇りと意欲をもちながらも結婚、出産、育児という過程を経るなかで仕事と両立できずやめていく方達もいます。家事や育児を分担じゃなく協力し合うことによって女性も他に目をむけていけるのではないでしょうか。

21世紀が目の前に迫り、情報化、国際化、高齢化と言われる社会がやってきます。地方自治体に対する住民のニーズも高まっているなかで、より良い社会を実現するためには、男女がお互いの立場や違いを認め合うことが大切です。

また、多様化した社会のなかでは女性がもつ「気配り」や「感性」を必要とする職種も増えております。女性と男性が共に責任を担い合って個性豊かに生きられる社会の実現をめざしてとテーマにあるようにこれから私も会場の皆さんとともに考えていきたいと思います。

学校の中の男女平等教育について「男のくせに・女だから…」を考える

崎 枝 小 中 学 校
養護教諭 平 地 ますみ

1．はじめに

私達は、学校や家庭で「男の子だから」「女のくせに」とついロにすることがある。「男女平等」と頭ではわかっていても、慣習とされている事や社会通念としてあることには、なかなか問いなおす事をしない。毎日の生活の中にある男女差別に、大人たちも気づかず無意識のうちにことばや態度で子どもたちにその性差別のメッセージを伝えていないだろうか。

長い歴史の中で作られてきた「男らしさ・女らしさ」の固定観念や先入観でがんじがらめにされてきた私たち大人は、その息苦しさから解き放たれることなく、ますます習慣やしつけとして子どもたちへ同じ芽を植えつけようとしている。

「男らしさ」「女らしく」「女だから、男だから、あたりまえ」と思われることがほんとうにそうなのか、なぜそうなのかを考えなければならない。

2．学校の中で

◎ 集団としてみる（学年や男子、女子とひとくくり）
◎ 男女分けることがあたりまえ（名簿、学習用具や持ち物の色分け、並び方、男女別平均等）
◎ 子どもたちの声（資料参照）

3．男女平等を求める社会の動きと学校

◎ 県女性政策室からの副読本「ゆめがいっぱい～わたしたちのすてきな社会～」1996年より発行
（県内の小学校3年生を対象に配布されている）
◎ 中学校家庭科の男女共学と高校での家庭科男女必修
◎ 小学校算数の教科書に例題文の中で男の子を「くん」でなく「さん」と記述
◎ 混合名簿のとりくみ

4．これから

1) 意識しなければわからないもの（区別は差別につながる）
2) 人権意識に基づいた男女平等観を家庭でも、学校でも
3) ジェンダーフリーの教育を

ミズニュース

八重山上布を織り続けた　新垣幸子さん「現代の名工」に!!

島の女性たちが苧麻の繊維を細く紡ぎ、自然の植物で染め、琉球王府への貢納布として納めていた八重山上布の染め織りに魅せられ26年間織り続けている新垣幸子さんが「現代の名工」に選ばれ、表彰された。

古文書の文献等を基に調査し、独自の工夫、研究で幻の織物とされていた括染（くくりぞめ）を復活、普及、産業を活性化させた功績が高く評価され、技能者の模範となることが認められ表彰された。

新垣　幸子さん

第２回まるざーフェスティバルの開催

「かがやき　響き合う　やいまの　女たち」をテーマに、石垣市女性団体ネットワーク会議参加団体が実行委員会を結成し、１月30日・31日の２日間、各種16団体が参加して『第２回まるざーフェスティバル』を開催した。

『まるざーフェスティバル』は、平和で豊かな社会を創り出すための女性を中心とした活動を一堂に展開し、情報を共有するとともにネットワークの輪をひろげ、相互にエンパワーメントすることを目的とするもの。

くにぶん木の会

八重山更生保護婦人会

沖縄看護協会八重山支部

コープおきなわ八重山ブロック

女性講座いしがき'98 閉講

「自分らしく生きるために、あるがままの自分を見つめて、ありたい自分を探し確立する。」をねらいとする女性講座が修了。

◎

修　了　証

あなたは　女性講座いしがき'98を修了されました
今後とも男女共同参画社会の実現に向けていっそう
のご協力をお願いいたします

女性講座いしがき'98実施表

回	月　日	学　習　内　容	学習方法	講　師	場　所
1	7／28（火） PM 8:00～9:30	開講式 自分らしい生き方を求めて （女性と人権）	講　話 話し合い	総務部企画室 すべーす・結 代表　高原節代	大濱信泉 記念館
2	8／8（土） PM 2:00～4:00	見過していませんか。 メディアの中の女性問題 （女性とメディア）	講　話 話し合い	沖縄タイムス社 唐花直美	大濱信泉 記念館
3	8／22（土） PM 2:00～4:00	共に生きる社会をめざして （女性管理職からの メッセージ）	ミニ シンポジューム	櫻田嘉京子 松竹喜生子 新城悦子 宮良保子	大濱信泉 記念館
4	9／19（土） PM8:00～10:00	ご存じですか 年金のし・く・み （女性と年金）	講　話 話し合い	石垣社会保険事務所 所長　佐和田健治	大濱信泉 記念館
5	10／3（土） PM 2:00～4:00	改正機会均等法 どこがどうかわるの？ （女性と労働）	講　話 話し合い	沖縄女性少年室室長 大草啓子	大濱信泉 記念館
6	11／21（土） PM8:00～10:00	海外女性セミナー報告 閉講式	研修報告 話し合い	「女性の翼」研修生 小底弘子 総務部企画室	大濱信泉 記念館

平成10年11月21日

石垣市長　大　濱　長　[illegible]　石垣市長之印

講師・県女性少年室室長　大草　啓子

「女性の翼」研修報告　小底　弘子

女性講座いしがき'98 修了証の授与

県女性行政情報

沖縄県男女参画青年政策会議委員に 島袋　綾野さん

県では、来るべき21世紀の望ましい社会づくりに若い世代の意思を反映していくために「沖縄県男女参画青年政策会議」を発足。

石垣市を代表して島袋綾野さん（石垣市教育委員会文化課）が委員として3月15日委嘱された。

女性問題キーワード4

性　暴　力

本人の望まない性的行為によって相手に身体的・精神的苦痛を与える行為をさす。

1993年に国連が採択した「女性に対する暴力」を肉体的・精神的・性的・心理的損害や苦痛を生じさせる性に基づくあらゆる暴力行為と定義づけている。

性暴力の加害者は見知らぬ他者と考えがちだが、実際にはデートの最中や、職場でのレイプ、近親者によるレイプなど身近な者からの被害も多い。

表　紙

まるざーは、八重山方言で円座を意味する。老若男女の別なく円座になって情報を交換したり未来を語り合うことを象徴して命名した。写真は、男女共同参画社会の実現をめざす「いしがきプラン」の効果的な推進を図るために、市民、各種団体推薦、市職員等からなる「いしがきプラン」地域推進委員会の、委員の委嘱並びに第1回会議スナップ。推進委員会は地域・家庭・職場、あるいは個人的に内在する女性問題の解決及び調査研究、情報交換等、「いしがきプラン」の推進及び支援を図るためのもの。